まつやま 子規亭 第２夜

三世岡本宮之助さん（新内節演奏者）の公演次第

平成27 年9月12日(土)18:30開演
松山市立子規記念博物館　4階講堂

［出演］
浄瑠璃：岡本宮之助
三味線：鶴賀喜代寿郎
上調子：岡本文之助
尺　八：徳丸十盟

１．開会あいさつと出演者の紹介
子規記念博物館館長　竹田美喜

２．新内流し　『蘭蝶』ほか

３．新内放談　『新内？なんぞなもし』

４．新　　内　『子規・のぼさん』-子規絶筆三句-
（作詩：野上　周、作曲：岡本宮之助）

子規が病床で仰向けのまま、差し出された画版の唐紙に糸瓜の句を三句(絶筆三句)、一気に書き上げた状況を作詩したものが、新内節で語られます。

５．閉会あいさつ　子規記念博物館館長　竹田美喜

単夜券　￥3,500.-子規記念博物館1階事務所にて好評販売中！

平成２７年９月１１日（金）１７：３０より
道後温泉駅前から道後商店街など、実際に新内節流しを実施!!
☆道後界隈で実際に新内節流しをお楽しみください☆

新内とは

三味線の情緒に乗せて歌い手の太夫が語る素浄瑠璃で、江戸時代から続いています。花柳界や座敷などの花街と結びつき、手ぬぐいと三味線で街頭を演奏しながら歩く新内独特の「流し」をするようになりました。色っぽさと粋が特徴で、遊女や心中を題材とした古典がよく知られていますが、落語などと同じく時事ネタや文芸作品を取り入れた新作も多く作られてきました。市井の愛好者が支えてきた民衆の音楽で、「東の新内、西の義太夫」と言われています。

特に、「岡本派」は聴いている人の頭の中に場面が「絵」として浮かぶように演じられるそうです。浄瑠璃なので聴いていれば物語を把握できるように作られてはいますが、内容が全て　分かりにくくても音楽として聞くこともできます。

プロフィール

三世岡本宮之助
(さんせいおかもと みやのすけ)
新内節奏者

東京都出身。
故岡本文弥・五代目宮染に従事。文弥晩年の演奏会・録音などの上調子をつとめ、三味線方として新内各派の演奏会で活躍。また弾き語りも好評。
現在、古典や文弥作品の継承につとめながら、創作にもその活動を広げている。
『下町芸能大学』は、第１回より参加。樋口一葉『一葉日記』、正岡子規『子規・のぼさん』、永井荷風『墨東奇譚』など作曲・公演、下町ゆかりの文学と芸能の融合、発信につとめてきた。

『子規・のぼさん』解説

「悟りといふ事は如何なる場合にも平気で死ぬる事かと思って居たのは間違ひで、悟りといふ事は如何なる場合にも平気で生きて居る事であった。」
と、宿痾との壮絶な闘いに明け暮れながら「写生論」によって明治以降の文学に多大な影響を与えた正岡子規。
若い頃から肺を患い、晩年には背中に膿の出る孔が幾つもあいて、生き地獄の責苦をなめさせられていたと云われています。病床に仰向けのまま、差し出された画版の唐紙に糸瓜の句を三句、一気に書き上げ、これが絶筆となりました。
子規絶筆の場面が新内『子規･のぼさん』として創作・初演されて 12 年。以来、涙なしでは聴けないと子規ファンに支持され、公演を重ねている作品で、今回ようやく念願の子規記念博物館での公演となりました。
江戸以来の芸能・新内による発信が、子規さんの文学の神髄を知る上でのひとつの契機となってくれることを願っています。

（野上　周）